

## 文化賞

### 青木 義雄



昭和23年生まれ。土生在住。

昭和48年から警察官として勤務し、平成20年海南警察署を退職。

和歌山県美術家協会会員。有田川町文化協会吉備支部フォトクラブ会員。

照井四郎氏に師事。同氏主宰熊野写真塾生。令和3年瑞宝単光章受章。

在職中から文化協会フォトクラブに在籍し、文化祭や同会写真展に積極的に作品を発表している。文化協会ではクラブ長も務め、会員による撮影会の世話役や写真技術の向上等に精力的に努め、会員相互の親交も深めた。

退職後は本格的に取り組み、地元有田川町内の風景をはじめ和歌山県内の風景を四季折々に撮影。町内のギャラリーにてグループ展を催し、多くの人々の目を楽しませてくれている。また、美しい故郷の姿を広く知ってもらおうと数々のフォトコンテストに応募し、そのほとんどで入賞を重ねている。

知人の勧めもあり、平成26年初めて和歌山県美術展覧会（写真）に応募すると最優秀賞受賞。以後毎年入賞し、令和2年より和歌山県美術展覧会の招待作家となる。また平成27年から一般社団法人二科会写真部が主催する写真部展にも応募し、毎年入選を果たしている。

美しい風景から年中行事、さらにはその土地ならではの暮らしなどの写実的なものから、人間の内側にせまる肉薄したものまで作風は幅広い。風景を意匠的に捉えることに工夫しコンテストで認められているため、より意匠的、抽象的なものに芸術性を見出す新たな価値観の創造に取り組んでいる。

このように芸術性に富んだ氏の作品は当町文化協会の振興に大きく貢献しており、その功績は誠に多大であります。

## 文化賞

### あらぎ島景観保全保存会



有田川町清水のあらぎ島における水田耕作を継続し、農村の歴史的文化的遺産としての棚田について考え、その機能をいつまでも存続させたいと平成8年に耕作者で結成された。約2.6ha大小54枚の水田が耕作されている。令和2年1月女性、高齢者グループの生活・生産に関する表彰で知事賞を受賞。

あらぎ島は、有田川が大きく湾曲しその浸食作用によって形成された、扇を開いたような舌状の棚田です。その歴史は古く、明暦元年（1655年）山保田組初代大庄屋笠松左太夫が請願し、約3kmもの上流から「上湯（うわゆ）」と呼ばれる灌漑用水路を開き新田開発されたものです。笠松左太夫は農民生活の改善や地域の発展に尽力した郷土の偉人のひとりです。私財を投じて数多くの用水路を整備し、新田開発を行うなど開拓事業に尽力した人物で、紀州初代藩主徳川頼宣の命により和紙産業を興し保田紙生産の基礎を築きました。

このあらぎ島を舞台に、地元八幡小学校の生徒への稲作体験指導や、都市住民への田植えや稲刈りの体験指導など積極的な交流が図られています。地域住民と協力して上湯の維持管理に努め、昔ながらの慣行農業を行うことで豊かな自然環境が保たれており、和歌山県準絶滅危惧種指定されている小動物の生存が確認されています。

平成25年10月17日あらぎ島と周囲の景観が「蘭島及び三田・清水の農山村景観」として、国の重要文化的景観に選定されました。全国で36番目、和歌山県内では初めての選定となります。「人と自然の共同作品」とも呼ばれるあらぎ島の文化的景観は、人々の暮らしによって生み出され維持されてきたものであり、これからも人々の手によって維持していかなければなりません。

あらぎ島の景観は有田川町が未来に伝えなければならない風景であり、本町における文化振興に尽力された保存会の功績は誠に多大であります。